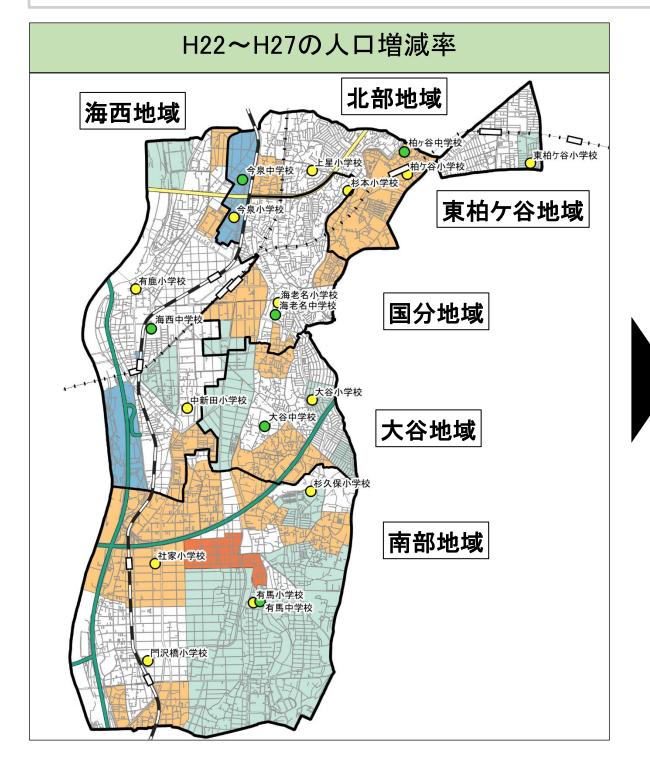
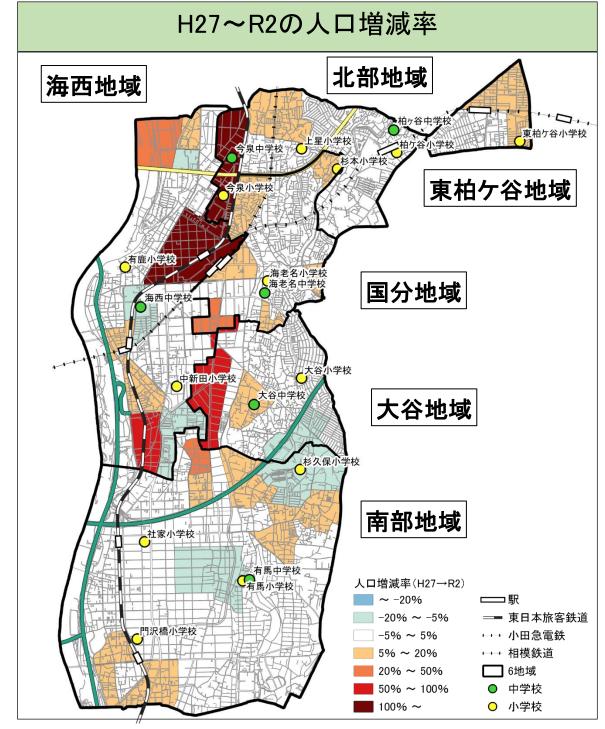
海老名市の地域状況について

地域別人口変化

- ➤ H22~H27の変化では駅周辺で人口増加がみられ、駅から離れた地域で人口減少がみられます。
- ➤ H27~R2の変化では海老名駅周辺で急激な人口増加がみられます。

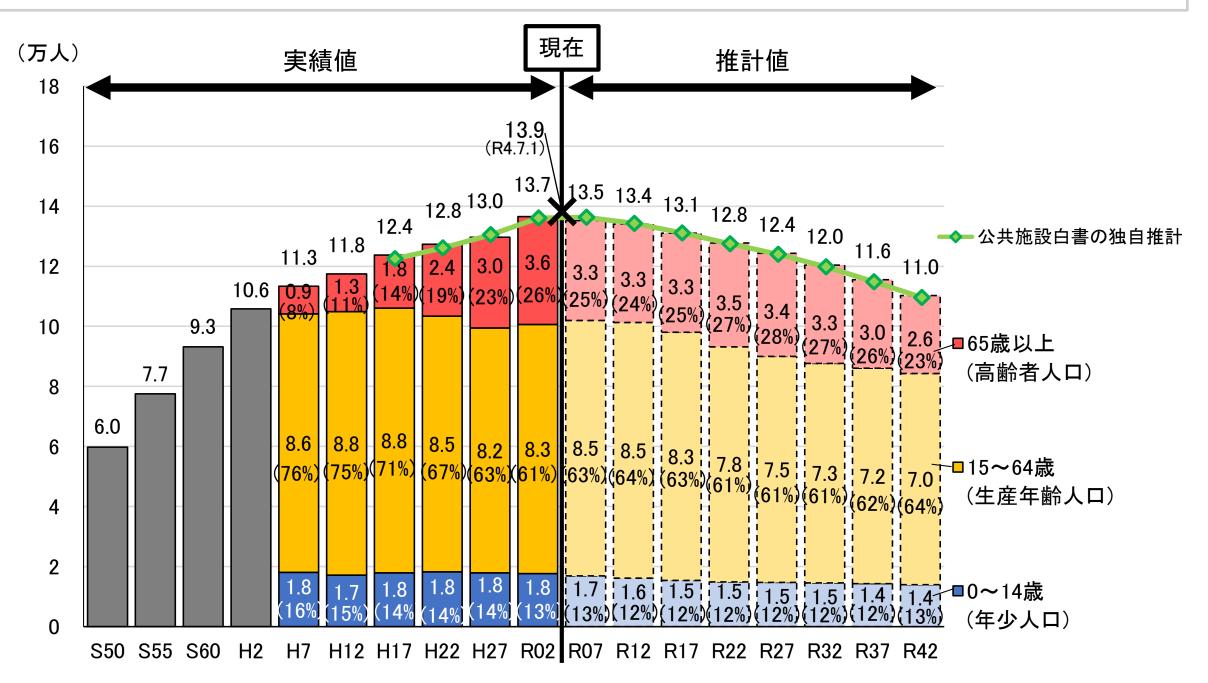




出典:国勢調査(総務省統計局)

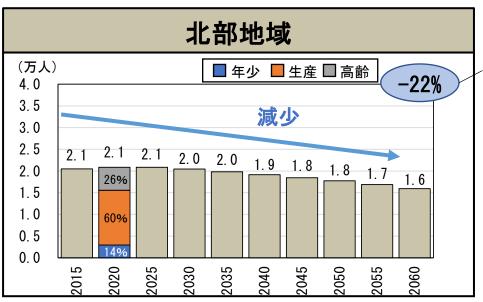
海老名市の人口動態

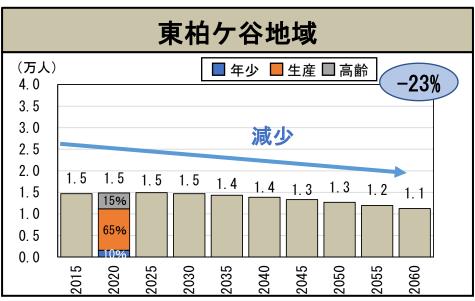
- ▶ 海老名市の総人口はR4年7月1日現在、13.9万人で、当初の人口推計(R5年ピーク想定 13.7万人)を上回る社会増が生じています。
- ▶ 3 階層別では、H7年からR2年にかけて高齢者人口が増えて生産年齢人口が減り、今後も引き続き生産年齢人口が徐々に減少する見込みです。



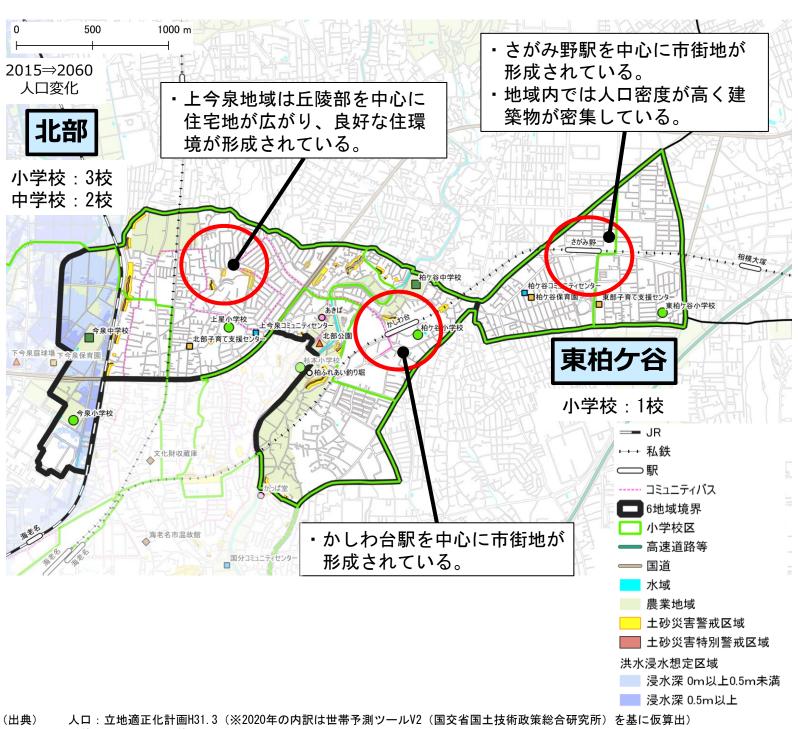
①北部・東柏ケ谷

- ▶ 相鉄線の駅である、さがみ野駅・かしわ台駅を中心に市街地が形成されています。
- ▶ 2地域とも人口は緩やかに減少しており、東柏ケ谷地域では人口密度が15,492人/k㎡と6地 域の中でも人口密度が高い地域となっています。





	北部地域	東柏ケ谷地域
地域の面積	2. 53k m²	0. 96k <i>m</i> ²
人口密度 (2020年)	8, 245人/k㎡	15, 492人/k㎡



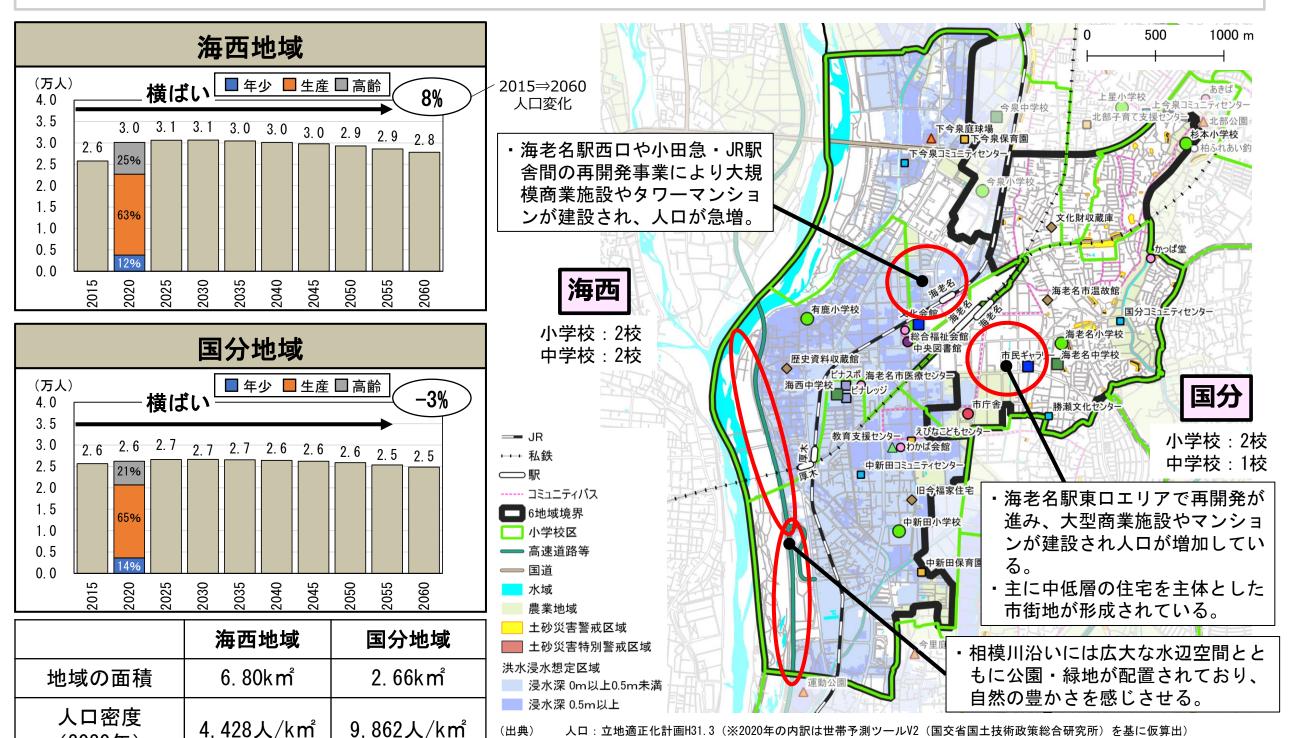
洪水浸水想定区域:国土数値情報(洪水浸水想定区域)(国土交通省)、海老名市ハザードマップを基に作成

土砂災害警戒区域:海老名市ハザードマップを基に作成

2海西·国分

(2020年)

- ▶ 海老名駅周辺の再開発事業により、商業施設やタワーマンションが建設され、人口増加が見 込まれています。
- 人口は横ばいで推移していますが、開発動向により人口の変化が大きく出る可能性があります。



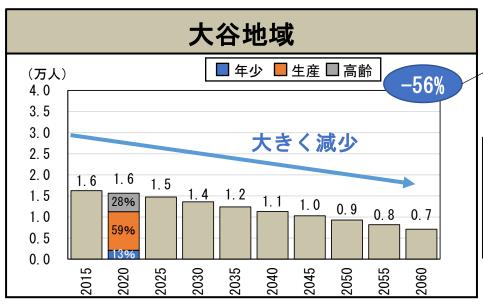
土砂災害警戒区域:海老名市ハザードマップを基に作成

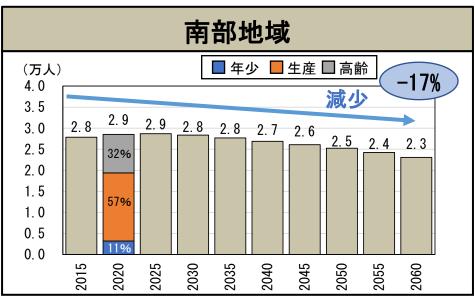
人口: 立地適正化計画H31.3 (※2020年の内訳は世帯予測ツールV2 (国交省国土技術政策総合研究所) を基に仮算出)

洪水浸水想定区域:国土数値情報(洪水浸水想定区域)(国土交通省)、海老名市ハザードマップを基に作成

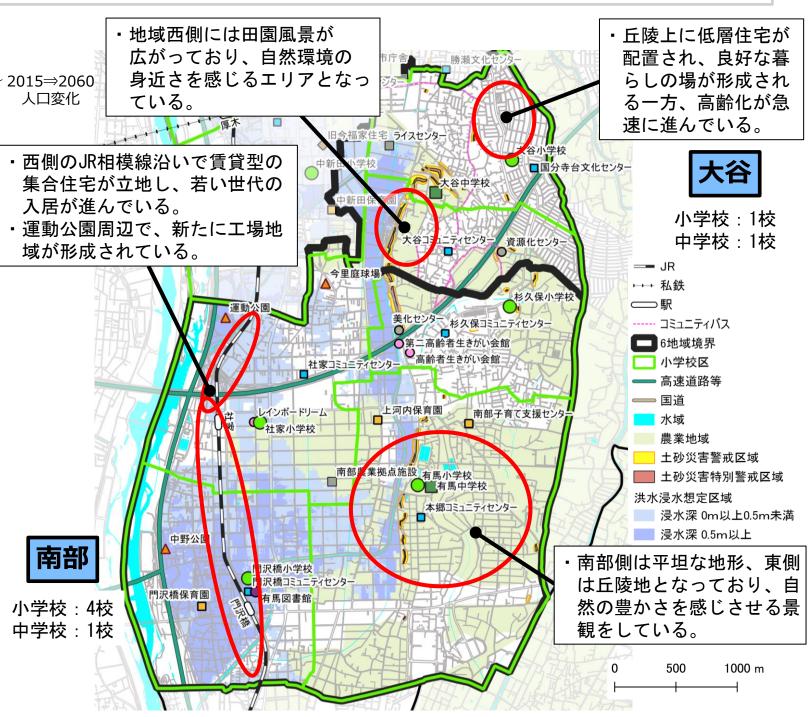
③大谷·南部

- ▶ 南部地域の線路沿いで都市開発が進み住宅や工場が増えている一方、東側では田園と丘陵 地があり、今後人口の減少がみられます。
- ▶ 大谷地域では今後人口の減少が大きく見られ、高齢化が進行すると予測されます。





	大谷地域	南部地域
地域の面積	2. 81k m ²	10. 83k m ²
人口密度 (2020年)	5,564人/k㎡	2, 633人/k㎡



人口: 立地適正化計画H31.3 (※2020年の内訳は世帯予測ツールV2 (国交省国土技術政策総合研究所) を基に仮算出)

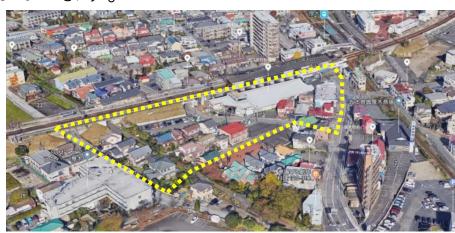
洪水浸水想定区域:国土数値情報(洪水浸水想定区域)(国土交通省)、海老名市ハザードマップを基に作成

土砂災害警戒区域:海老名市ハザードマップを基に作成

新たな開発の動き

②厚木駅南地区市街地再開発事業

・令和元年度に県より組合設立認可を受け、現在、共 同住宅を主とした施設や駅前広場等の都市施設の整備 が進んでいます。



③運動公園周辺地区における工業系用地の創出

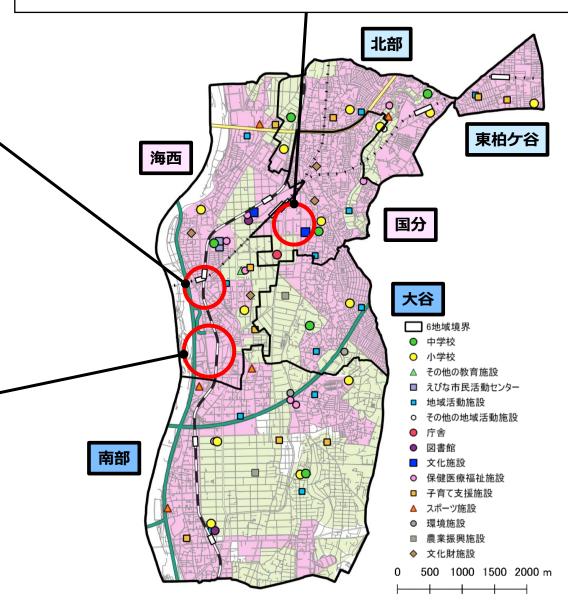
・土地区画整理事業の施行により新たな工業・流通拠点の整備を進め、令和3年に事業が完了しました。現 在、大規模流通施設等が整備されています。



①海老名駅周辺の大規模開発

・約35,000㎡の敷地を、「住宅エリア」と「賑わい創出エリア」の2つに分け、人口構成を踏まえた住宅の供給と商業施設を計画。

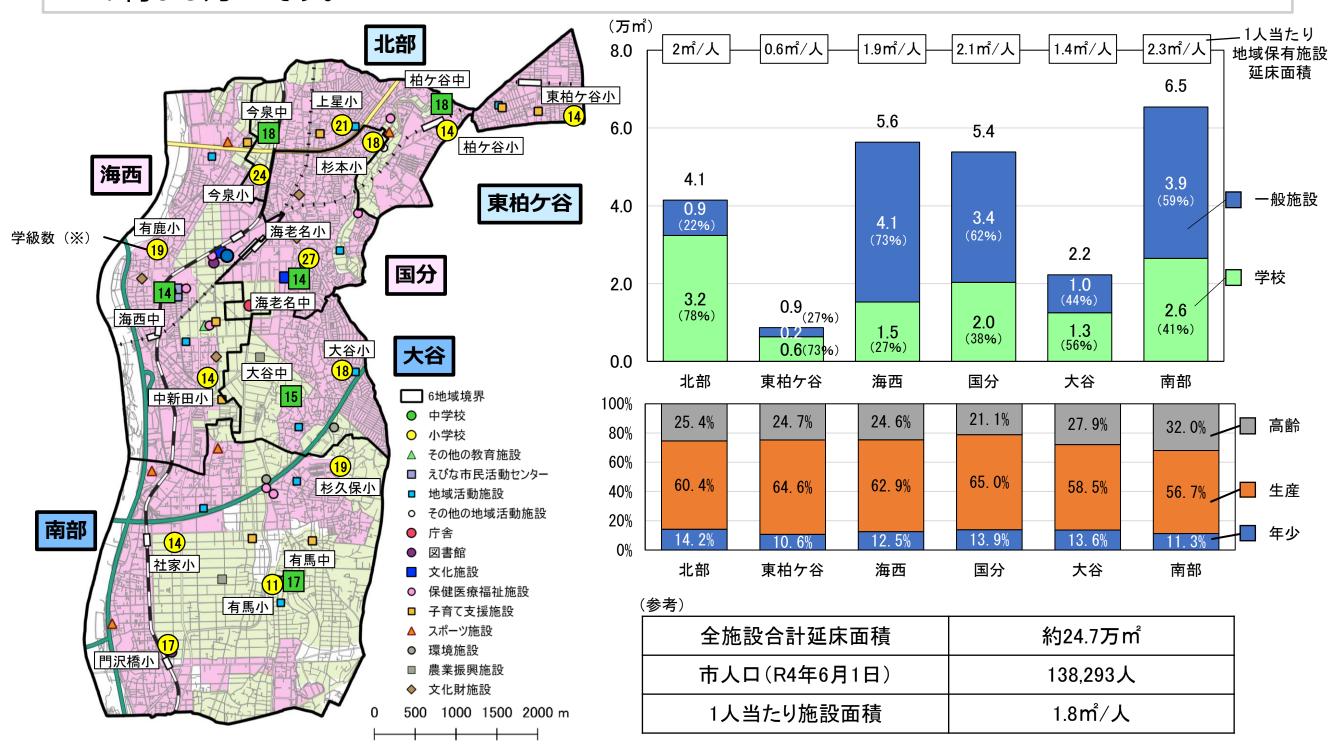




出典:立地適正化計画H31.3

地域別施設保有量

- ▶ 海老名市が保有している公共施設の延床面積は約24.7万㎡です。
- ▶ 施設を多く保有している地域は南部地域の約6.5万㎡で、一番少ない地域は東柏ケ谷地域の約0.9万㎡です。



海老名市(R3年度)地域実態マップ

